

## 第5学年 国語科学習指導案

日時 平成17年 9月7日 4校時

児童 5年2組 男子17名 女子14名 計31名

指導者 宮古市立磯鶏小学校 教諭 齋藤 佳孝

- 1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう
- 2 教材名 わらぐつの中の神様 (光村 5年下)

### 3 単元について

#### (1) 児童について

物語文の前単元「新しい友達」では、人物の心情の移り変わりをとらえるために、全文をいくつかの場面に分け、場面ごとに課題を設定し、学級全体で課題を解決しながら学習を進めてきた。また、単元の学習活動の中に、人物関係を図に表したり、心情を読み取ることができる文や語句を視写し、書き込みをして考えを深めたりしながら、読みの技能や学習方法を確認してきた。こうした学習活動を通して、子どもたちは中心人物を中心に課題を立て、心情や場面の様子を想像しながら、物語の内容を読み取ることができるようになってきている。4月から市立図書館の本を学級に借りてきて読む活動を続けたことにより、読書にも意欲的に取り組むようになってきている。しかし、物語の学習では、学級全体で話し合うことを学習活動の中心にしてきたため、自己学習の場を多く設定することができなかった。3学期の「学習したことを生かして」の単元に向けて、叙述に即した読みの定着を図ると共に、自分の読みをしっかりとち、友達と読みと交流しながら学習に取り組めるようにしていきたい。

#### (2) 教材について

本単元的主要な指導事項は「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。(読むことウ)」である。優れた叙述を味わいながら読むためには、登場人物の人物像に視点をあて、心情や性格、考え方を多面的にとらえることが大切である。そのために、人物の心情と表現や叙述とを関係付けてとらえたり、自分の読みと友達の読みとを比べたりしながら、読む力を高めていく必要がある。また、場面の様子や心情が響き合った情景表現やクライマックスなどの文章構造に着目することも大切である。表現の工夫を読み取るために、文章の必要な部分を視写しながら詳しく読んだり、構造を図示したりしながら、学習を行う必要がある。

本教材「わらぐつの中の神様」は、雪国に暮らす家族のあたたかい心の通い合いを描いた作品である。人や物についての叙述が美しく、温かく、繊細で、登場人物の心情を

豊かに想像することができる。また、中心人物がはっきりしていることにより、その心情の変化もとらえやすくなっている。作品のおもしろさを生み出している「現在 過去 現在」と物語の構成は、構造的に作品をとらえる学習にも適している。さらに、作者の出身地である新潟をイメージした作品づくりにふれることで、自分たちの郷土を舞台とした物語や同じ作者の物語を読んでもみようという意識をもたせることができる。

### (3) 指導にあたって

児童に身に付けさせたい技能を明確化にする。

- ・本単元での身に付けさせたい技能を「心情を豊かに想像する力」「物語の構造をとらえる力」「同じ作者の作品を読み、感想をもつ力」とする。
- ・「心情を豊かに想像する力」を高めるために、視写や書き込み、サイドラインや、音読などを、単位時間に効果的に位置付ける。
- ・「物語の構造をとらえる力」を高めるために、場面ごとの読み取りを生かし、作品の構造図を作成する。
- ・「同じ作者の作品を読み、感想をもつ力」を高めるために、読書カードの工夫や図書資料の整備を行い、読みの学習を読書に広げていくようにする。

指導と評価の一体化が図られる単元を構想するために

- ・評価規準を明確にし、指導計画全体で、どのような評価をするか計画を立て指導案に示す。
- ・単位時間での自己評価や自己学習の成果における相互評価、担任からの評価の方法を明確にし、単位時間や単元の中に効果的に取り入れる。

学習方法を明確に位置付けた授業を行うために

- ・「課題確認」「課題解決に向けての見通しの話し合い」「見通しにそった学習方法による読み取り」「まとめの書く活動」という学習過程を整える。
- ・「読み取ったこと」「思ったこと・考えたこと」「感想」の三段落に分けてまとめを書くことを確認する。
- ・単位時間における自己学習（視写や書き込み、サイドラインや対話）と単元における自己学習（音読練習、語句調べ、既習の学習方法を活用した調べ学習）を設定する。

個に応じた支援を明確にした授業を行うために

- ・第二次の学習における、まとめの書きと書き込みの内容分析を座席表に記入し、各場面の読み取りにおける児童の思考の流れを把握し、個人差に対応できるようにする。

- ・ Aの児童には自己学習や発展読書の充実を図り、Cの児童には、学習シートや個別指導のあり方を工夫する。

#### 4 単元の目標

物語の内容や表現、構造に関心を持ちながら、登場人物の心情やその変化を読み取る  
うとするとともに、同じ作者の作品を選んで読書することができる。

(国語への関心・意欲・態度)

登場人物の人物像や心情の変化、場面の情景を、叙述に即して読むことができる。

(読むこと)

物語の文章構成や表現方法の工夫を理解することができる。(言語事項)

#### 5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読むこと	ウ 言語事項
<p>叙述をもとにしながら、登場人物の人物像や心情の変化を読み取ろうとしている。</p> <p>物語の表現や構成に関心を持ち、視写や構造図にまとめようとしている。</p> <p>同じ作者の作品に興味を持ち、進んで読もうとしている。</p>	<p>登場人物の言動や情景から、人物の心情や心情の変化を読み取っている。</p> <p>物語の山場やクライマックスをとらえ、作品にこめられた思いを読み取っている。</p>	<p>物語の楽しさや面白さをささえる、文章の構成について理解している。</p> <p>語感や言葉の使い方に関心を持ち、優れた叙述を選んでいる。</p>

6 指導計画及び評価規準（全8時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	「わらぐつの中の神様」の感想や、杉みき子の作品について感想を話し合う。 中心人物を確認して、人物の心情をとらえていくことを学習課題として設定することを確認する。 8時間の学習計画について見通しをもつ。	事前に課外として「人物関係図」「重要語句・文の視写・書き込み」「心情曲線図」を学習シートにまとめ、導入の話し合いに生かすようにする。 杉みきこ読書カードを配布し、読書についての関心や意欲を高めるようにする。	アー 同じ作者の作品に興味を持ち、進んで読もうとしている。 〔読書カードの記述から〕 アー 中心人物について自分の考えをもち、話し合いに参加している。 〔発言の内容や学習計画表の記述から〕
二	2	わらぐつには神様がいないというマサエの人物像について話し合う。 最後に、神様がいるかもしれないというマサエの変化のわけを予想する。	マサエの心情の変化を大きな課題とし、そのきっかけとなったおみつさんと大工さんのかかわりをとらえるという視点で課題を設定する。	イー 優れた叙述を根拠にして、人物の心情を読み取っている。 〔視写や書き込みから〕
	3	おみつさんの人物像について話し合う。 おみつさんがわらぐつを編もうと思ったきっかけを読み取る。	単位時間の課題を解決するための見通しをもつ場を設定する。 見通しにそって読み取りをすすめるが、必ず学習方法を児童に意識させるようにする。	イー 登場人物の言動や情景、場面の移りかわり、人物の心情の変化を読み取っている。 〔まとめの書きから〕 ウー 五感や言葉の使い方に関心をもち、優れた叙述を選んでいる。 〔視写や書き込み、教科書へのサイドラインから〕
	4	わらぐつを一生懸命つくるおみつさんの心情を読み取る。 わらぐつにこめられた思いを話し合う。	・音読で心情表現する。 ・優れた叙述にサイドラインを引いたり、視写したりする。	
	5 (本時)	期待しながらわらぐつを売るおみつさんの心情を読み取る。 わらぐつが売れ残ったおみつさんの心情を読み取る。 わかい大工さんをおがみたい気がしたおみつさんの心情を読み取る。	・対話しながら考えを深める。 見通しを板書に位置付けるとともに、チョークの色を工夫し、課題解決に必要な文や語句、発言内容が構造化された板書になるようにする。	
	6	わかい大工さんがわらぐつを買う理由を読み取る。 マサエの気持ちをかえたのは何かを話し合う。	まとめの書き方を確認し、自分の思ったことや考えたことを書けるようにする。	
三	7	読み取った内容をふりかえり、全体の構造を確認する。 物語のクライマックスについて話し合う。 構造図の書き方を確認する。 ・冒頭（導入部） ・発端（展開部） ・クライマックス（山場の部） ・結末 おわり（終結部） 構造図を書く。	まとめの書きを壁面に掲示し、ふりかえりがしやすいよう工夫する。 前単元の「新しい友達」の構造図をモデルとして、書き方を確認できるようにする。特に、構造図を表すために必要な語句の確認を丁寧に行う。 支援を要する児童には、あらかじめ枠が示されたシートを用意する。	
四	8	構造図をまとめる。 場面ごとの読み取りや、構造図をもとに、作品にこめられた思いについて話し合う。 学習をふりかえり、感想を書く。	作品にこめられた思い（主題）については、自分なりの読みから結論を導くことの必要性を確認する。 学習についての取り組み方についてふりかえる。	アー 同じ作者の作品に興味を持ち、進んで読もうとしている。 〔読書カードの記述から〕 アー 登場人物の人物像や心情の変化を読み取るようとしている。 〔学習のふりかえりから〕

7 本時の指導

(1) 目標

おみつさんの会話や行動、心情表現から、売れずに残っていたわらぐつが初めて売れたことにより、買ってくれたわかい大工さんをおがみたいほどうれしく思うおみつさんの心情の変化を読み取ることができる。

(2) 具体の評価規準

具体的評価規準 評価の観点	おおむね満足できると判断される状況 (B)	Bのうち十分満足できると判断される状況 (A)	努力を要する児童の指導の手だて
?	三つの場面に即して、おみつさんの心情の変化をとらえることができる。	おみつさんの心情の変化に対する、自分の考えをもつことができる。	書き込み時の個別指導やまとめにおけるシートを工夫する。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価	
つかむ	1. 前時の想起をする。	おみつさんの作ったわらぐつが「変な格好」だが「じょうぶ」であることを確認する。 前時の児童のまとめの書きを紹介し、本時の学習への意欲付けを図る。 課題を一斉読みし、課題の意識化を図る。		
	2. 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、おみつさんは、わかい大工さんをおがみたいような気がしたのだろう。</div>			
ふかめる	3. 本時の学習場面を音読する。	本時の学習場面の確認と課題解決の見通しをもつために、一斉微音読を行う。音読後は、課題解決に関わる重要語句や重要文にサイドラインを引くよう指示する。		
	4. 学習の見通しを確認する。	サイドラインを引いたところを確認し、課題解決のために「売りに行く前のおみつさん」「わらぐつが売れないおみつさん」「わらぐつが初めて売れたおみつさん」について学習していくことを確認する。		
	5. おみつさんの心情について話し合う。 自分の作ったわらぐつが売れることを期待しているおみつさんの心情を読み取る。  わらぐつがうれずにがっかりしているおみつさんの心情を読み取る。	わらぐつが売れることを期待するおみつさんの心情がわかる場所にサイドラインを引き、その根拠について友達と対話しながら、心情の読み取りを行う。 「ほんのちょっぴり自分の手のとどくところ～」の表現に着目し、おみつさんの心情を想像する。  お客さんとおみつさんの会話文を音読し、わらぐつが売れないおみつさんの心情をとらえる。 「あけすけ」や「不細工」などの言葉に着目して、心情をとらえることができるよう支援する。		
	6. 本時の学習をふりかえる。	わらぐつが売れてうれしい気持ちが表れている文を視写し、書き込みをして身上の読み取りを行う。 「うれしくてうれしくて」や「おがみたい」から、うれずに落ち込んでいた様子からの変化をとらえることができるようにする。		
まとめる	7. 学習のまとめを書く。	「読み取ったおみつさんの心情」読み取った内容から思ったこと・考えたこと、「授業の取り組みについての感想」を三段落に分けて、まとめて書く。 代表の児童に発表させ、読み取りの内容を共有化する。		視写や書き込みの記述から
	8. 次時の学習の確認をする。	次時の学習課題と学習活動を確認する。		まとめの記述から